

経営健全化計画の履行状況

抜本的な経営体質の強化に向けて

りゅうぎんは、直接金融の機会が少ない沖縄県の中小企業や個人の健全な資金ニーズに安定的に信用を供与することで、金融システムの安定さらには県経済の発展に寄与することが、沖縄県の中核的金融機関であるりゅうぎんの責務であると考えています。

そのために、「金融機能の早期健全化のための緊急措置に関する法律」の趣旨に則り、平成11年度には、不良債権の処理を一気に進める一方、227億円の第三者割当増資ならびに400億円の公的資金の導入を実施しました。

りゅうぎんは、公的資金の申請に際し策定した「経営の健全化のための計画」(以下、「経営健全化計画」)に基づき、前向きな業務再構築と一層の経営合理化・効率化を着実に推進するとともに、役職員が一丸となって良好な金融サービスを提供することで、経営理念である「地域から親しまれ、信頼され、地域社会の発展に寄与する銀行」を創り上げてまいります。

総融資量(平残)は、個人部門が住宅ローンを中心に増加しましたが、景気低迷の長期化による資金需要の低下から法人部門が減少し、経営健全化計画を239億円下回りました。

中小企業向け貸出(末残)は、景気低迷の長期化による資金需要の低下や企業の財務リストラの影響などから、経営健全化計画を174億円下回りました。

総資金量(平残)は、個人預金は順調に推移したものの、法人預金ならびに公金預金などが減少し、経営健全化計画を298億円下回りました。

経費は、経営健全化計画の206億円に対し実績は200億円と計画を6億円下回って達成しており、経営の効率化は順調に進捗しています。

業務純益は、預金・貸出金収支の改善や経営効率化による経費の圧縮などにより、経営健全化計画を1億円上回りました。

経常利益は、計画を上回る不良債権処理(85億円)や株式市況の低迷に伴う株式等減損処理(32億円)などにより、経営健全化計画を69億円下回りました。

当期利益は、経営健全化計画を29億円下回る41億37百万円となりましたが、利益水準としては過去3番目の高い水準であります。

自己資本比率は、単体ベースでは0.33%、連結ベースでは0.51%、経営健全化計画を上回っています。

行員数は、経営健全化計画を51名下回り達成しました。

店舗は、平成14年9月に今帰仁支店を出張所に変更したことから58カ店体制となり経営健全化計画を達成しました。

単位:億円

	経営健全化計画	平成15年3月期	差異
総融資量(平残)	10,904	10,665	239
中小企業向け貸出(末残)	6,416	6,242	174
総資金量(平残)	13,292	12,994	298
経費	206	200	6
うち人件費	100	99	1
うち物件費	95	91	4
業務純益(一般貸引前信託償却前)	150	151	1
経常利益	114	45	69
当期利益	70	41	29
単体自己資本比率(%)	9.86	10.19	0.33
連結自己資本比率(%)	9.69	10.20	0.51
行員数(人)	1,369	1,318	51
店舗数(店)	59	58	1
ROE(注1)	17.26	17.52	0.26
ROA(注2)	1.09	1.12	0.03

(注1)一般貸引前信託償却前業務純益/資本勘定(平残):投下資本をいかに効率よく使用して利益を上げているかを示す指標です。

(注2)一般貸引前信託償却前業務純益/総資産(平残):一定期間に運用した総資産で、どれだけ効率よく利益を上げているかを示す指標です。

(注3)店舗数は出張所を除きます。

(注4)表上の値は各項目とも切り捨てて表示しています。